

ドイツ遠征を振り返って

【NAKAMURA Kei】 1995/6/24生まれ



長いようで短かったドイツ遠征
デュッセルドルフ空港からバスで40分くらいでホテルに着きました。
部屋に入ってトイレに行くと鍵がないし便座も冷たく日本とは違う
んだな～と思いました。
シャワーも熱くなったり冷たくなったりしたので、とても大変でした。
18日に朝、朝食はパン、日本のパンと違いとてもかたかったです。
その日は朝練をして午後から試合という日程でした。

朝練では体が重く調子が悪かったので午後の試合が不安でした。
試合は18時KO。18時といっても明るい暑くなく試合をやるにはいい環境でしたが、結果は負けてしまいました。
夜はレストランで食事でした。やっぱりドイツの食事は口に合わず食べきるのに苦労しました。

19日、この日は1つ上の相手と試合をしました。相手はフィジカルがとても強かったです。…けど、3-1で勝つ
ことができました。勝った事はよかったけど点を決めてからの失点という所と残り5分と言われたにもかかわらず、
不用意なファールでの失点という面ではまだまだ甘いと思いました。

21日、ケルン大聖堂に行き、その後、ブンデスリーグの観戦をしました。ブンデスリーグは、サポーターがとても
熱く日本とは比べものにならなかったです。

24日、午前中はデュッセルドルフで買い物をしました。けど、デュッセルドルフは他の場所に比べて物が高かった
ので買わずにいたら50ユーロも余ってしまいました。
午後はFortuna Dusseldorfと試合をしました。
フォルトゥナ対決なので負ける訳にはいきませんでした。結果は1-1の引き分け
でした。
26日無事帰国できてよかった。いろいろあったけど楽しい遠征でした。ドイツ遠
征で生活面では文化の違う国での生活は大変だという事を学んだ。サッカー一
面ではファールひとつで失点につながるの、ファールをなくすためにもいい
ようになりたい。



【MORIMOTO Ryuji】 1995/7/2 生まれ



全体を通して、失敗談、成功談は、まず成功談は服屋に行って服を買って
ホテルに帰ってよく見たら、服の文字がとれていたの、次の日にまたそ
の服屋に行ってちゃんと服をかえてもらった事です。

最初は、文字がとれていたけど我慢しようかと思ったけどチャレンジしてみようと思って、
店に行ったら服をかえてもらったので良かったです。

次に失敗談は、早くお金を使うとすぐになくなってしまおうと思、ぜんぜん使わないでいた
ら最終日になっていっぱいお金が残っていて、最終日にいっぱい物を買ったけど、まだ
まだお金が残ってしまいロンドンでユーロをポンドにかえて、ロンドンでいろいろ買ってし
まった事。ドイツに来たのにロンドンでたくさん買ってしまっは、あまりに意味がないと
思った。

最後にこの遠征を通して……

この遠征で初めて海外に行ってドイツの文化など学べて、すごく勉強になったし、ドイツ
のチームと戦い海外の強さ、体の違いなどがあり強かったけどドイツのチームと戦って、
みんな強くなったしチームが一段とまとまった気がしたので、とても良かったです。

この学んだ事を生かして将来の自分に役立てようと思った。

ドイツと試合したことを忘れず、このドイツ遠征を高円宮に活かそうと思います。



ドイツ遠征を振り返って

【DOBASHI Shohei】 1995/6/15 生まれ

ドイツへ行き、まず感じたことは、日本と気温が違うことです。ドイツはとても寒かったです。

暑い日本から来たので慣れませんでした。それなのに半袖で寝たので声がかれてしまいました。自分の体調管理ができなくて情けなかったです。

観光では、初めていく町が多く道に迷うこともあったり言葉が通じなかったりして大変でした。

英語が全然しゃべれなかったり聞きとれなくてとても悔しかったです。もっと英語を勉強しようと思いました。

でも、何か困ったときに、みんなが協力して解決することができたのは、とてもよかったと思いました。

生活面では、水道水が飲めないことやトイレが有料であることなど、日本ではありえないことがたくさんありました。

一番とまどったことは食事です。日本のように何種類も品が出てこなくて、しかも重い量が多くて食べきるのが大変でした。

日本に帰って米を食べたときは涙が出そうになりました。日本食のありがたさを感じることができてよかったです。



【MOCHIZUKI Yuto】 1995/4/19 生まれ

初日、ドイツのことをほとんど知らない僕の目に飛び込んできたのは、クレフェールド駅の時計台でした。

駅自体はあまり大きくないのにあれだけの時計台があるなんてすごいところに来たなと思いました。

その時計台のすぐ近くにあるホテルを本拠地としてドイツでの日々がスタートしました。

試合1日目、地元クラブと試合しました。負けてしまいました。前半は勝っていたのに、自分が出た後半に逆転されました。

この遠征の前半はこういう試合が多かったです。もっと下からの突き上げが必要だと思いました。

そうすれば選手層が厚くなると思います。この課題は最終戦のフォルトウナ・デュッセルドルフ戦で少し改善できたかなと思います。

0-0 0-1

でむかえた3本目に僕はCBで出ました。このときはなぜかリラックスしてでき、チームもダイレクトパスから1点を取ることができました。

サッカー面では気持ちよく終われてよかったです。

今回は生活面でも勉強させられました。

ケルンへの観光の際にカメラを無くしてしまいました。

自己管理ができていませんでした。これは最終日も同じで、ロンドンの空港でパスポートを無くしてしまいました。

でも結局、宮内のカバンの中にもありました。人のカバンだとしてもやっぱり自己管理はしっかりしないとイケないと思いました。

他にもドイツの人と会話をよくしたと思います。電車の中や道を訪ねるときなど言葉はちがっても現地の人とコミュニケーションをとることができたのは良かったです。

僕にとってドイツでの日々は短いものでした。

途中、ドイツの文化に慣れない事がありました。やっぱり短かったです。

この経験は間違いなく自分のためになったし、親のおかげで経験できたことなので、親をはじめみんなに感謝の気持ちを持ってこれからもサッカーを続けていきたいと思っています。



ドイツ遠征を振り返って

【FUJISHIMA Katsushi】 1995/4/7生まれ



今日ドイツから無事、帰国しました。
終わってみると「もう終わってしまったのか」と感じます。
そう思うくらいドイツは新鮮で楽しかったです。
そして、強く印象に残ったもの、学んだことなどドイツで得たものは様々です。
特に例をあげるとすれば1つは飛行機です。
日本からロンドンを経由してドイツに行くのに約14時間ほど飛行機に乗っていることになるけど、その時間はあんまり長くは感じませんでした。
雲を上から見下ろすというのは不思議な感じでした。
そしてドイツに着いたときはもう夜寒かったのも、その日はホテルに行ったらすぐ寝るという日でした。
そして2日目以降から、ドイツの町にとけこみ、文化にふれ合う生活がスタートしました。
ドイツで過ごした約1週間の中でやはり俺達にはいろんな不便なことがあったり、食文化の違いで困ったり、言葉が通じなかったりなど様々な壁がありました。
サッカー一面でも、見ての通りの体格の違い、空中での競い合いの打点の高さなど大部分で劣っているところがありました。
更にボールの扱いのうまさ、キックの精度で点を取ってくる。
簡単に勝てるような相手ではありませんでした。
最悪なゲームもあれば全員がチームとしてまとまっていたゲームもあった。
その中で一人ひとりが自分の長所・短所・課題を見つけて帰ってきてから自分で見つけたことをどのようにしていくかが大切だと思います。
ドイツ遠征で学んだことをこれからどんどん生かして成長していきたいです。

PS 路面電車にまさると2人で乗ってデュッセルドルフまでタダで行ったのはいい思い出になりました！！



【MATSUTANI Kei】 1996/1/20 生まれ

僕にとっては初めての外国であり、初めてのドイツに行く前はとても楽しみでした。
いろいろと想像して、10日間を思いっきり楽しんでくことを考えていました。
もちろんサッカーも思いっきりプレーしてこようと思いました。
ドイツといえばワールドカップでも、いつも上位に入るし、そんなドイツの人たちとプレーできることはとても楽しみでした。
デュッセルドルフ空港に着き、まず最初に感じたことは、日本とドイツの気候の差でした。ドイツは日本とは違いとても涼しく、サッカーでちょうどよい環境でやれるんだなと思いました。
朝食はいつもパンで家とは違うので、6日目くらいからは米が食べたくなくなりました。
夕食は肉が多く、しかも大きすぎて食べきれないのが大変でした。

ドイツのチームとの試合は、みんな大きいのであたり負けないように頑張りました。
相手の選手はとてもシュートがうまくどんな所からでもうってきました。
そういう所は勉強になりました。今回ドイツに行くことができてサッカーではドイツの人の技術や考え方などがわかりました。
生活ではみんなで協力して洗濯をしたりしてチームが1つになれた遠征だと思いました。
ドイツ遠征は良い経験になったので、これからのサッカーや生活に活かしていきたいです。



ドイツ遠征を振り返って

【MARUYAMA Junpei】 1996/1/10 生まれ

朝起きると同じ夏なのに、日本とは違い気温が低く、特に朝と夜はかなり冷え込みました。朝、ホテルの外に出ると、半袖では少し寒いぐらいでしたが、自分はドイツのように朝涼しいことがちょうど良かったです。

ドイツの朝ごはんは、パンが毎日出てきて、日本ではいつも朝は米なので、ドイツでは米がでないことに日本との食文化の違いを感じました。でも、ドイツのパンはかんでいればどんどん味が出てきて、表面はかたいけど中はフワフワしていて、とてもおいしかったです。ホテルの朝ご飯で一番驚いたことはチーズでした。朝ご飯で出たチーズは日本のチーズはしっかり固まっているけど、ドイツのチーズはプリンのように柔らかくてとてもなめらかでした。

でもけっこうしょっぱかったです。ドイツでは路面電車、バス、電車などを使ってグランドや観光地まで移動しました。ドイツに来て、僕は生まれて始めて路面電車に乗りました。普通にしていれば、普通の電車だけけど外の景色を見れば、ドイツの街の中を通過して、買い物などをするときにはとても便利だと感じました。電車には2階になっている電車もあって、驚きました。ブンデスリーグの観戦では、ケルンのサッカースタジアムに行って試合を見ました。

小瀬の陸上競技場とは違い、サッカースタジアムだったので選手たちがすごく近くで見えて座席が下のほうに行くと、選手たちと同じ視線で試合が見られる場所もあり、一体感がありました。

ドイツのサッカーサポーター達はとても熱狂的でとても暖かいサポーターでした。シュートを打つと急に盛り上がりて次のプレイに期待したり、点を取ったときはチームのサポーターが総立ちで日本でJリーグの試合を見ると違って、鳥肌が立つほどすごかったです。観光の時に一番気をつけていた事は、貴重品を盗まれないようにすることでした。ドイツは日本と違って治安が悪いから、なにかを買った後には必ず盗まれているか確認していたおかげで無事にとられることはなかったです。

日本でも貴重品は大事に使っていたけど、ドイツに来てさらに大事に使っていくことを心がけていきます。

ドイツでトイレに行くときにはチップを払ったりする所もあったので非常に面倒でした。なので、トイレに我慢できるところは我慢して、チップを払わなくていいトイレでしたりしていました。サッカー面では、日本とは違ったいい体つきだったり、ボールの扱い方やテクニック、体の入れ方などW杯で3位になった国の強さを感じました。

ゴール前でファールをすれば、ドイツ人の精度の高いシュートやクロスが入ってきて点になってしまったり、早いアプローチで何もできなくなってしまうたり、自分の足りなかったことが良くなった遠征でした。

日本のサッカーの試合で手を使ったファールが多くとられることをドイツに来て実感しました。体格が大きい相手になると、自分もそうだったけど、すぐに手が出てしまって、体を手で押さえつけてファールになったりしました。

そこは日本人が直したほうがいいことだと思います。

ドイツの水は、日本とは違って炭酸水が出てきたり、米が出てこなかったりまったく通じないドイツ語を片言の英語と体を使ったジェスチャーで表現したり、自分が住んでいる国とは違った文化をドイツで学んで、例えば貴重品の管理など学んだことをしっかりと日本でも活かしていきたいと思いました。また何年後かに海外へ旅行へ行くことにもなったら、ドイツの国にまた行きたいと思える10日間でした。

ドイツは気温も日本ほど暑くなくてご飯もおいしいし、飲み物もドイツ独特のものもあつたりして、とても過ごしやすく楽しかったです。



ドイツ遠征を振り返って

【KANEMARU Tatsuya】 1995/10/21生まれ

僕は海外に行くのはドイツが初めてでした。

海外はどんな所かとても楽しみでした。

成田からロンドン行きの飛行機ではトラブルで団体が省かれてしまいました。そして席についてみると、老人夫婦にはさまれた席でした。

しかし、皆川さんに言われ、両側がフォルトウナの人の席にいけました。とても安心しました。

デュッセルドルフに着き、ホテルへ向かって部屋に入りトイレを使おうとしたら、トイレに鍵がありませんでした。

困りました。冷蔵庫も無かったのでジュースを買ってもすぐぬるくなってしまいました。

朝食はパンが主食でした。フランスパンのようなパンがおいしかったです。

同じ朝食が何日も続きました。結果パンは飽きてしまいました。

夜のレストランのご飯はとてもおいしかったです。

ある夜の肉はとてもデカくて食べるのが大変でした。

ジュースが一杯しかないのがとてもきつかったです。

観光ではドイツの町並みを良く見ることができました。

ドイツは路面電車がとても多く通っていました。

日本では見たことがありませんでした。

昼食はマックがとても多かったです。

ドイツのマックはとてもおいしかったです。

でもトイレの前に黒人のおばさんが座ってお金をとろうとしてきて、トイレが使用不可能でした。

とても困りました。ドイツはコンビニにも公衆トイレも自販機も無くとても不便でした。

日本の自販機のありがたみを知ることができました。

買い物では自分の買いたい物を買えてとても楽しかったです。

肝心のサッカーのプレーのほうはドリブルで行っても何もできずパスもつながらず、何もできませんでした。

いつかはどうかしたいと思います。

海外ではやはり言葉の壁が大きかったです。

言葉が通じなくて何回も苦しみました。

ドイツ語や英語をしゃべれるようになってまた行きたいと思いました。

帰りの飛行機でトイレに財布を忘れそうになったのはとても危なかったです。

忘れ物には注意していきたいと思います。



ドイツ遠征を振り返って(まとめ)

【GOTO Tomoki (Capten)】 1995/6/10 **生まれ**

あっという間の10日間だった。初めの2日間は長く感じたけど、それからは1日が楽しすぎて終わるのが早く感じた。

ドイツに行って思ったことは、言葉が通じないから、向こうの人とのコミュニケーションをとるのが難しくて、お金を払う時とか、電車の時間が変わった時とか、結構困った。でも一番困ったのは、ケルンの試合の帰りに、ちょっとハプニングが起きてしまった時だ。

帰りの電車の中で、僕グループと皆川さんグループとで別の電車になってしまい、お互いに話があってなくて、僕達グループは目的地の2つから3つ過ぎて降りた。なので、まず地上に出て、集合場所のケルン大聖堂を探したけれど見つからなかったの、近くにいたおじさんに写真を見せながら“Koln Dome Go!”と色々単語を並べたら、わかってくれたらしく道を教えてくれたので、ライン河まで行って、そこからケルン大聖堂を目指した。無事に大聖堂に着いた時はすごくうれしかったです。

ご飯は、数は少ないけれど、一つひとつの量が多くてちょっとびっくりした。でも味は美味しかったから良かったと思う。やっぱり日本食が一番だと思った。

4日目にブンデスリーグを見に行っただけど、スタンドとグラウンドが近くてすごく迫力があつたし、サポーターの応援のしかたも人数も本当にすごかった。

それに点が入ったりした時は、上から物が落ちてきたりして、本当にすごかった。でも、ああいう雰囲気プレーしてみたいと思った。

サッカー一面だと一の3日間は、全体的に内容が良かったと思うけど。最後の2日間は全然駄目だと思う。中盤は全然機能していなかったし、みんなパスミスも多くてボールが全然回らなかった。それにリードしているのにミスをしてしまって失点につながり、勝てる試合を落としてしまったこともあった。それにドイツの選手は、キックが上手いし、背がでかいのに、ゴールに近いところでファールをしてしまい、セットプレーから失点につながってしまったこともあった。だからファールをしないでボールを奪うことができればいいし、もしセットプレーになっても、相手を走らせなきゃいい話だと思う。

自分的にも判断が遅くて、かつ悪いからボールを奪われることが多かった。それに、ドイツ人は背もあるから足が長くて、思わぬところから足が出てきたりするのでやりにくかった。でも初めの3日間はダイレクトとかでボールが回ったり、センターフォワードにボールが収まったりしていたから、いい内容になったと思う。

全体的にも自分的にも、6日目が1番駄目な試合だったと思う。この日の試合相手は、ドイツ全土でも5位以内に入るという強い相手だった。一つ下の選手達だったが、上手では、全然だめだった。自分も含めて、みんな声が出ていなかったし、味方をどう動かしたいのか?..とか、自分はどうしたいのか?..とか、みんな言えていなくて、チームがばらばらだった。こういう時に僕が声を出して、チームをまとめなきゃいけないのに、それができなかった。

最終日、フォルトウナダービー、結果は1対1だったけど、この日も全然良くなかった。

今回の遠征を通じて、色々学べたことがたくさんある。日本とドイツの食文化の違いだったり、言葉のコミュニケーションだったり、サッカーだったらドイツのあたりの強さだったり、タフさだったりといっぱいある。日本に戻ってきてもドイツで学んだことを活かしていきたい。それにまだチームが一つに慣れていないと思う。あと1カ月、チーム一つになって、もっと向上して先輩達が続けてきた4連覇を僕達の代で崩さないように絶対優勝し5連覇する。



『珍道中ドイツ遠征』の編集を終えて

【MINAGAWA Shinichi】 1960／9／18 生まれ

やっと完成を迎えることができました。毎年のことながら、3月の声が聞こえないと本気にならない……というこの性格は何かならないものかと毎年思っていながらも……今回も結局、修了式間近という結果になってしまいました。すいません。楽しみにお待ちいただいているご家族のことを思うと来年こそはと……思っていますが……。

すでに高円宮杯などの結果は出ているわけですが、6か月前の選手たちの日記を読むと選手達の心の変化、そして何をきっかけに選手達が高円宮杯に向け、変わっていったのが良く分かります。それだけドイツ遠征というのは彼らにとって重要なのだな！ということに改めて実感いたしました。当初、ホームステイが今年もできない……、これまでコーディネートしてくださったHildenのHerr Jur Helmutが体を壊して今回できない……ということで、ドイツ遠征自体が、実現できるかどうか分からない状態でした。それでも選手達に、何とか、ドイツの文化、気候、食べ物、水……そしてサッカーを体感させてあげたいと思い、色々な方々に調整をお願いし、今回遠征ができることになりました。

今回の滞在地はKrefeld(クレフェールド)市と言うところの中央駅のすぐそばのホテルとなり、移動も貸切バスを使用したこともありましたが、そのほとんどは公共の交通機関を利用し、少しでもドイツを肌で感じられるように、ドイツ人の中に交じり活動できるような計画をいたしました。選手達の感想はそれぞれの日記でもありましたが、帰国後のご家庭での感想はいかがだったでしょうか？

今回、選手達は日を追うごとにたくましく、そしてパワーを持って取り組んでくれたと思っています。生活の面では、朝早くから、夜遅くまでのスケジュールを、ネガティブな発言が全くなく、いつも笑顔で選手たち同士で声を掛け合いながら行動できました。Kölnでブンデスリーグ観戦後のハブニングについても、彼らの行動力と、団結力が、大事にならなかった要因だと思っています。キャプテン後藤のリーダーシップももちろん欠かせない要因ですが、その彼をみんなで助け合った選手みんなの力だと感じ、選手達には大感謝でした。

サッカーの面では、ドイツサッカーの良い面を体験できた試合が続き、非常に良かったと思います。結果が悪かった……から良くなかったということではなく、今、俺達に足りないところ、今後、俺達がやらねばならないことを示してくれた相手と試合内容でした。世界でも有数の強豪国ドイツで我々のようなアジア人を快く受け入れてくれ、真剣勝負をしてくれたドイツ人に本当に感謝です。

ご存知の通り、すでに高円宮杯も終わり、県大会5連覇を成し遂げられませんでした。大会の初戦から関東大会の1回戦までの間、試合を重ねるごとに、チームも一つになり、選手それぞれが今何をしなければならぬのかをしっかりと判断できるようになり、このチームでもっともっと試合を重ねたいと心から思いました。

最後に今回の遠征にご尽力いただいたムラキエージェンシーの熊谷氏、ドイツとのコンタクトを取っていただいた下田さん、ドイツでのコーディネートにご協力いただいた瀬田さん、本当にありがとうございました。Vieren Dank fuer die Alles! そしてなにより、快く送り出してくれたご家族の皆様、本当にありがとうございました。

相変わらず進歩のない支離滅裂な珍道中ではありますが、少しでも現地の様子が伝われば幸いです。それでは、この辺で。

2011年3月6日

フォルトゥナサッカークラブ

代表 皆川 新一

